

(1) 開設科目・開催日・定員・対象

区分	開設科目	講師	講義の概要	開催日	定員	対象	条件
必修領域 (12時間)	教育政策の動向	西谷成憲 (多摩美術大学教授)	中央教育審議会などの国の審議会の動向を探り、教育基本法改定に伴う法改正を理解する。また、学習指導要領改定等と今時の改定を検討する。	7月27日 (月) 1時限	50名	全学校種全教科	全ての講義を受講すること
	学校をめぐる状況変化と教職	中根 勉 (東邦大学理学部非常勤講師)	客観的・具体的材料を用いて、学校をめぐる近年の状況変化を明らかにする。	7月27日 (月) 2時限			
	子どもの変化についての理解	大野晏且 (東京学芸大学非常勤講師)	近年の状況変化の中で、子ども観や教育観をどう捉え、また教員に対する社会的要請にどう応えたらよいかを検討する。	7月27日 (月) 3時限			
	学校内外における連携協力	中根 勉 (東邦大学理学部非常勤講師)	保護者・地域社会との連携において、対人関係の重要性を理解するとともに、日常のコミュニケーションがスムーズに取れる方法を検討する。	7月27日 (月) 4時限			
	キャリア教育をめぐる今日的課題	榎本和生 (多摩美術大学教授)	子どもの生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、社会的・経済的環境の変化に応じたキャリア教育のあり方を解説する。	7月28日 (火) 1時限			
	学校カウンセリングとカウンセリングマインド	榎本和生 (多摩美術大学教授)	学校カウンセリングの意義を理解し、教員にとってのカウンセリングマインドのあり方を検討する。	7月28日 (火) 2時限			
	子どもの発達と教育	中野良顯 (教育臨床研究機構理事長)	子どもの発達に関して脳と行動の両面から研究している最新の情報を踏まえ、子どもの発達を促進する教育のあり方を解説する。	7月28日 (火) 3時限			
	特別支援教育の今日的課題	中野良顯 (教育臨床研究機構理事長)	自閉症、学習障害などに対する特別支援教育に関する新たな課題について検討する。	7月28日 (火) 4時限			
選択領域 (18時間)	美術科教育の今日性 (その一) (現代の教科観と指導の実際)	丸山浩司 (多摩美術大学教授)	美術科教育の現状を踏まえ、今日的な美術の状況をどのように学校教育に反映させるべきかについて、教材としての具体的な取り入れ方を含めて、解説する。	7月29日 (水) 1時限	30名	小学校(図工) 中・高等学校(美術)	全ての講義を受講すること (但し、※の講義のみ3つのプログラムの内、1つを受講する。
	美術科教育の今日性 (その二) (新しい題材開発について)	丸山浩司 (多摩美術大学教授)	現代美術の作品群の中から、取分け生徒が関心を寄せるものを抽出し、それらの作品上の特質を参考にして、中・高で実践可能となる斬新な題材開発を具体例を紹介しながら試みる。	7月29日 (水) 2時限			
	美術科教育の今日性 (その三) (鑑賞教育の充実を求めて)	丸山浩司 (多摩美術大学教授)	昨今、美術教育の間では鑑賞教育の重要性についての認識が定着したが、未だ鑑賞教材の開発については研究が進んでいない。そこで鑑賞教育の今日的課題として、教材開発の視点を明らかにする。	7月29日 (水) 3時限			
	美術科教育の今日性 (その四) (美術教育の実践研究)	矢部亜矢 (東京芸術大学非常勤講師・大妻中学高等学校教諭)	学校教育における美術教育研究の実際を通して、その研究の今日的課題を明らかにし、授業充実のために研究方法について解説する。	7月29日 (水) 4時限			
	教材研究 (新しい表現技法) (木によるリトグラフの技法)	佐竹邦子 (多摩美術大学専任講師)	美術の表現技法や形態は時代の進歩と共に様々に変化しつつある。版面の技法においても、多種多様な新しい技法が開発されているが、その中で注目されている、木によるリトグラフの制作を体験する。	7月30日 (木) 1~4時限			
	教材研究 (斬新な題材) ※	尹熙倉 (多摩美術大学教授)	陶プログラム 粘土で作ることの、面白さや難しさを再発見する (目隠しによる制作等)。	7月31日 (金) 1~4時限			
池本一三 (多摩美術大学教授)		ガラスプログラム 溶解したガラスを成形体験することで、造形素材としてのガラスについて考える。					
小林光男 (多摩美術大学教授)		金属プログラム 「火づくり」や鍛金による素材体験を通して、新たな制作指導のヒントを掴む。					

注. 開設科目の中で「学校をめぐる状況変化と教職」において当初、担当講師は2名でしたが、中根勉先生のみとなります。